

◆ 2004年 第7週 (2/9~2/15)の感染症発生動向

■ 全数把握感染症の発生状況

1~4類感染症 : 0件

5類感染症 : 0件

■ 定点把握感染症の発生状況

☆ 比較は定点あたりの人数による

○ インフルエンザ増加中、高松地区が流行警報地区に

2004年 第7週 の感染症発生動向調査による報告患者総数は1783人で、前週(1720人)比103.7%となった。インフルエンザの報告はやや増加した。高松地区で大きく増加し流行警報地区となった。その他西讃・東讃・中讃・小豆地区の順に多く、4地区とも定点あたりの報告が20人を超えており、引き続き流行注意地区となっている。感染性胃腸炎(ウイルス)は横ばいである。中讃地区からの報告が最も多く、定点あたり15人程度で増減を繰り返している。他の4地区からの報告は定点あたり10人未満である。水痘の報告は横ばいである。高松・中讃地区からの報告が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎はやや増加した。小豆地区からの報告が多い。突発性発しんも増加した。小豆地区以外で散発した。

◆ 今週の上位疾患(小児科定点からの法定届出疾病)

疾患名	今週	前週	前週比	過去5週の平均	過去10年の平均	報告の多い地区
① インフルエンザ	25.8人	23.9人	107.8%	11.8人	12.6人	高松◇ 西讃◇ 中讃◇
② 感染性胃腸炎(ウイルス)	10.2人	10.3人	99.1%	11.0人	8.4人	中讃◇ 高松◇ 西讃◇
③ 水痘	1.9人	1.8人	108.9%	2.3人	2.0人	高松◇ 中讃→ 東讃→
④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.8人	0.6人	125.0%	0.6人	0.5人	小豆◇ 中讃→ 高松→
⑤ 突発性発しん	0.6人	0.3人	172.7%	0.6人	0.7人	西讃→ 東讃◇ 高松◇

◆ 病原微生物検出情報

細菌	分離数	検体	検体採取日	地区	病名
C.jejuni	1	糞便	2/2	小豆	急性胃腸炎
S.aureus	2	糞便	2/2、2/4	小豆、東讃	急性胃腸炎

ウイルス	分離数	検体	検体採取日	地区	病名
インフルエンザ A 香港型	37	咽頭	1/29~2/5	高松市・中讃(琴平)	インフルエンザ疾患(36)・上気道炎

◆ 定点医療機関からのコメント

- 県立中央病院(高松市): インフルエンザ A 発症
- 高島小児科医院(高松市): 当番医があたって嘔吐・下痢が多かった。B型インフルエンザ 1名あり
- 西岡医院(高松市): インフルエンザラピッドテスト FLUAB A型46名 B型2名、インフルエンザエスプラインAB A4名、ロアデノライ ロ1名
- 幡内科消化器科医院(高松市): インフルエンザ 6名 エスプライン(A+)でした
- 三好医院(東かがわ市): インフルエンザラピッドビュー-A/B 36名、エスプラインA型18名、アデノチェックAd陽性1名
- 県立津田病院(さぬき市): 37.5℃以下の微熱でもインフルエンザ抗原検査陽性となっていた。
- 香川大学医学部附属病院(三木町): インフルエンザ 2例中1例は迅速キットにてA型と診断されている症例です
- 松原病院(三木町): エスプラインインフルエンザ A&B-N A型48名
- 坂出市立病院(坂出市): インフルエンザ A型22名
- 聖マルチン病院(坂出市): インフルエンザ 全てA型
- いけうち小児科医院(宇多津町): インフルエンザ 全てA型
- 麻田総合病院(丸亀市): インフルエンザ A型のみ
- もりもとこどもクリニック(丸亀市): インフルエンザ 全てA型
- 中野小児科医院(多度津町): インフルエンザ やや減少 全てA型
- 国立善通寺病院(善通寺市): 病原性大腸菌カンピロバクター 1件、ロ(+)2件
- 小国医院(満濃町): エスプラインインフルエンザ A&B A(+)16名
- 富田内科医院(観音寺市): 2/11 が当番医だったため多めに来院された。

◆ 気象通報

第7週 の平均気温 : 7.3℃(過去の30年の平均気温 : 5.4℃)

第7週 の平均湿度 : 53.3%

